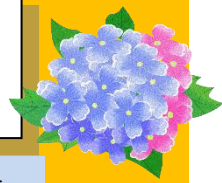


教育研究所だより



No.243 令和7年6月10日 【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳

より良い学校園風土を創るために

守山市教育委員会教育長 辻本長一

他校園に出張した際、皆さんは「(自校園における普段とは)違う何か」を感じることがあるのではないのでしょうか。あるいは転勤の際にも、同様の感覚を覚えるかもしれません。それは、心地よさであることもあれば、違和感として感じられることもあるでしょう。

一昨年度、私は大学職員としてさまざまな学校園を訪問する機会がありました。その中で、学校園ごとに異なる「空気感」や「雰囲気」を強く感じました。ある岐阜県の中学校を訪れた際には、どの教室でも生徒と教員の豊かなコミュニケーションが交わされ、廊下では生徒も教職員もが朗らかに挨拶をしてくれ、たいへん温かな印象を受けました。

創意工夫を凝らした教育課程の編成・実施や、教科指導の充実は言うまでもなく重要です。しかし、それらの教育活動をいかに有効に展開できるかを左右する、非常に重要な要素があります。それが、「より良い学校園風土」を醸成することです。

学校園としての重点目標が全教職員に共有され、個々の教職員がその力を最大限に発揮するためには、心地よく働ける風土、すなわち互いの力を引き出し合える環境が不可欠です。

では、すべての教職員にとって居心地の良い風土を創るには、何が必要なのでしょう。私は、子どもたちに求めている価値——たとえば、挨拶、傾聴、敬意、責任感など——を、まずは私たち教職員が日常の中で体現することが出発点だと考えています。その中でも、近年、私自身が特に意識していることが二つあります。

一つ目は、教職員同士の関係性において、「あたたかく、安心できる雰囲気づくり」を大切にすることです。そのために、明るい表情で挨拶を交わす、相手の話に丁寧に耳を傾ける、敬意と労いの言葉を忘れない——こうした日々のふるまいこそが、風土を創っていく基礎になります。

特に私は、自分と関係の浅い人にこそ意識的に挨拶をし、丁寧に接することを心がけています。笑顔で挨拶をして嫌な思いをする人はいませんし、そのさりげない一言が、元気の源となることもあるのです。

二つ目は、多忙であればあるほど、周囲に目を向ける意識を持つことです。忙しさに埋もれるのではなく、ふと立ち止まり、周りの人々の様子を見つめる。あるいは、少し視点を変えて相手の立場に立ってみる。そうすることで、新たな気づきが得られることがあります。そしてその気づきをもとに他の教職員と会話を交わせば、さらなる学びや支え合いへとつながっていくかもしれません。何気ない一言が信頼関係を深め、悩みや不安の軽減にもつながるのです。

「薫習(くんじゅう)」という言葉をご存じでしょうか。私が校長時代、ある研修で講師の先生から教えていただいた仏教用語です。香が時間をかけて空間にしみわたっていくように、日常の中で人の在り方やふるまいが、周囲に影響を与えていく様子を指します。

学校園風土は、子どもたちのより良い学びを引き出すための「文化」であり、それは教職員一人ひとりの日々のふるまいと関係性の積み重ねによって育まれます。そして、その根底には、「自分はどう在るか」という問いが存在します。

小さな一歩が空気を変え、風土を育てます。私たち教職員一人ひとりの在り方こそが、学校園を変える力であり、ひいては未来を変える原点であることを、今あらためて胸に刻みたいと思います。

令和7年度の研修について



当研究所では、キャリアステージに応じた研修を企画しております。今年度も自分の日々の実践を振り返ったり、他者の実践から学んだりといった「現場の経験」を重視したスタイルの学びや参加者自らが「主語」となる研修方法を取り入れ、先生方の資質向上を目指していきます。

キャリアステージに応じた研修

☆全ステージ対象

【教師力・人間力の向上を目指し、人間の成長・発達についての深い理解や教師の基盤となる研修】

○教師力・人間力向上研修講座

☆実践力形成ステージ対象（若手教員におすすめ）

【具体的な事例をもとに、先輩教員等から実践事例を学ぶ研修】

○生徒指導・教育相談研修講座

○コミュニケーション力育成研修

○授業力向上研修講座

○特別支援教育研修講座

☆発展・深化ステージ（中堅・ベテラン教員におすすめ）

【教科指導力や生徒指導力などを専門的な見地から学び、知識を深める研修】

○生徒指導・教育相談研修講座

○授業力向上研修講座

○特別支援教育研修講座

○学校マネジメント研修講座



指定研修

☆初任者研修（全4回）

☆中堅者資質向上研修（全2回）

☆ステップアップ（講師1・2年目）研修（全4回）

☆2年次研修（全2回）

☆ボトムアップ（初年度2校目）研修（全4回）



※今年度も魅力ある研修を計画いたします。研修への参加をよろしくお願いいたします。

本年度のおすすめ講座

本年度、特におすすめする講座を紹介します!!

〇7月29日（火）13:30～

講師：南井 瑛翔 様（パリ五輪パラリンピック水泳代表）

講座名：パリパラリンピックを終えて ～挑戦し続ける力～

講座内容：守山市出身でパリパラリンピック競泳日本代表の南井選手に、夢に向かって努力してきた道のりや、苦しかったこと、支えてくれた人たちへの感謝、そしてこれから目指していきたい未来について、日々の教育にプラスになるようなメッセージも込めてお話いただきます。

〇8月1日（金）10:00～

講師：村田 和哉 様（株式会社人生最幸代表取締役（元プロサッカー選手））

講座名：夢は人をつなぐ

講座内容：プロサッカー選手を経て感じたスポーツを通じた地域づくり、夢を持つことの大切さ、子どもたちが輝くために大人ができることなどについてお話いただきます。

〇8月4日（月）13:30～

講師：周防 美智子 様（岡山県立大学現代福祉学科准教授）

講座名：子どものうつと問題行動・不登校の関連について

講座内容：子どもの行動や不登校等の状況を、「子どものうつ」の視点から研究されている周防先生に、子どもたちが出すSOSにどのように教員が気づき対応していけばよいのか学びます。



令和7年度の研究について



指導力向上に関する調査研究

★テーマ **新たな不登校を生まない学校における視点 ～アセスメントの在り方を探る～**

○目標：欠席日数等のリスクに応じた実践を通して、適切な支援や教育相談体制の向上が図られることで、新たに不登校になる児童生徒数が減少することを目指す。

【昨年度の研究から】

- (1)前年度欠席日数10日以上の子童生徒のリスクの高さ
- (2)本市小学校1,2年生実施 読み書きチェックの誤答数が多い子童のリスクの高さ
- (3)小学校6年間の累積欠席日数が30日以上の子童のリスクの高さ

これらのリスクを踏まえ、研究協力校において実践、実証を行います。

※今年度も、教育研究所の研究にご支援・ご協力をよろしくお願ひいたします。

お願ひします！



ごあいさつ

教師の成長を支援する

所長 脇阪 久徳

平素は本研究所の事業にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

守山市では、教育研究所の事業であった教育相談事業・児童生徒支援室事業を昨年度から教育支援センターとして再構築し、不登校対策についてもより充実した取組となるよう事業の推進を図っています。そこでは「社会的自立」という言葉がよく使われます。この「社会的自立」という言葉を、教育支援センターでは、「子どもを、社会で自立できるようにする」のではなく「子どもが、自ら社会で自立できるように支援する」ことを意識して事業推進を行っています。

さて、このことは、教職員の成長を目指し、教員研修に携わっている教育研究所においても同様であろうと考えています。研修等により「教師を、子どもや保護者から信頼されるようにする」のではなく「教師が、自ら子どもや保護者から信頼されるように成長することを支援する」と考えています。

「教育は人なり」という言葉があるように、教育の成否は指導者によるといっても過言ではないと思っています。まず人として成長すること、『人間力』を高めること」が人としての在り方を高め、教師として成長する「根っこ」であると考えます。

昨年度から教育研究所は、研究員、係長、所長の三人の組織となりましたが、教員自らが人間力を高められるような研修を軸とし、各学校園、先生方の良き「伴走者」として全力で先生方の成長を支援いたします。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

<令和7年度 教育研究所 職員>

所長 脇阪 久徳

係長 正江 茂文

研究員 木村 有貴

よろしくお願いいたします！